

乙 頁

第13号 (通巻第3巻第5号)
1984年1月1日 発行

守山中立埋蔵文化財センター発行

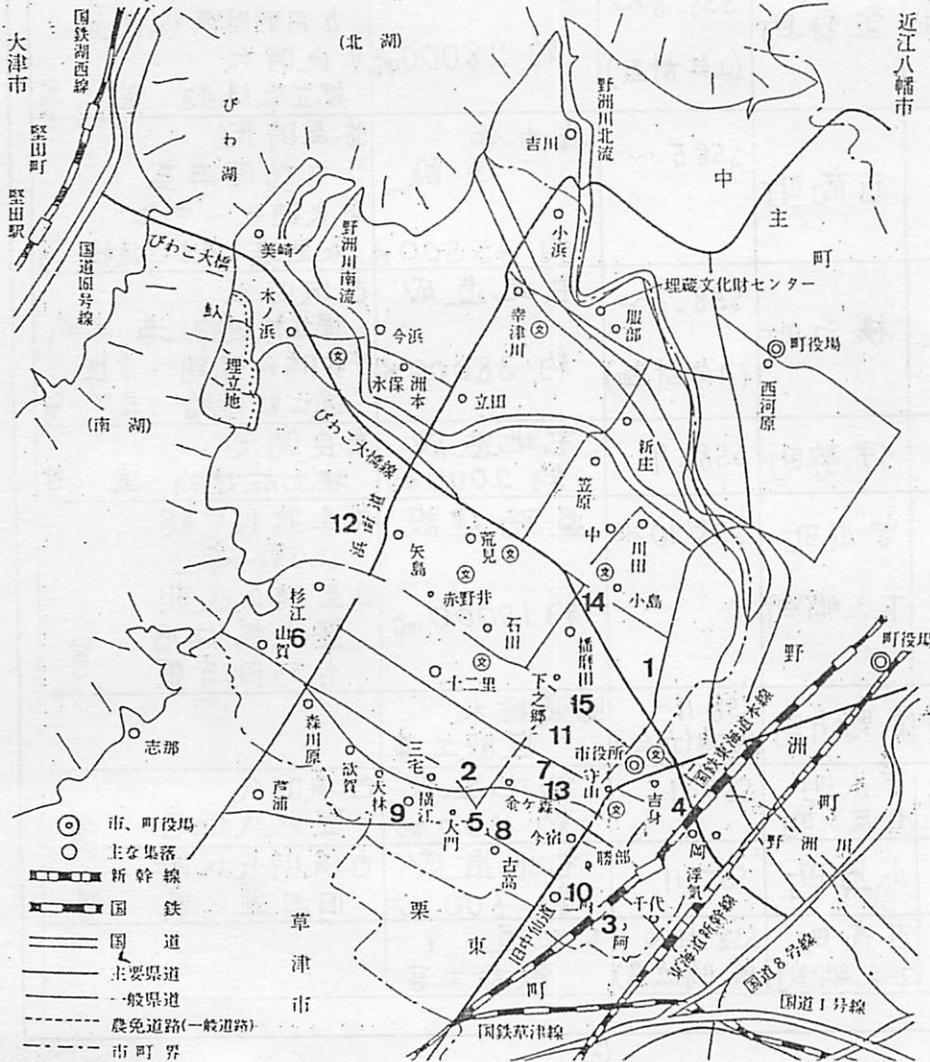
TEL 0775 (85) 4397

〒 524-02

守山市飯部町1318番地

今年度も開拓の激増に伴い、発掘調査の件数・規模とも増加しております。時間に追いかける調査ではありますが、かなりの成果をあげています。では昭和58年4月～12月の発掘調査の成果について簡単に紹介しましょう。

発掘調査地位置図



昭和58年度 発掘調査一覽表 (4月~12月迄)

番号	遺跡名	所在地	調査期間	原因 調査面積	遺構
1	播磨田東	播磨田町	S58.4~5	倉庫建設 約 400㎡	弥生時代~古墳時代 方・円形周溝状遺構等
2	金森西	三宅町	S58.4	宅地造成 約 300㎡	平安時代後期 掘立柱建物・溝等
3	伊勢	伊勢町	S58.4	宅地造成 約 100㎡	弥生時代 溝等
4	吉身北	梅田町	S58.5	宅地造成 約 400㎡	古墳時代後期 掘立柱建物等
5	下長	古高町	S58.5~8	工場用地造成 約 7000㎡	古墳時代後期 掘立柱建物・溝等
6	守山川	杉江山質	S58.5	河川改修 約 1000㎡	弥生時代前期~室町時 溝・ピット
7	金森東	金森町	S58.6~ (2年計画)	宅地造成 約 28000㎡	弥生時代~古墳時代 方・円形周溝状遺構 奈良時代 掘立柱建物・溝等
8	古高	古高町	S58.5~	南中学 建設 約 45500㎡	弥生時代 方形周溝墓 奈良時代~中世 条里溝・掘立柱建物等
9	横江	横江町	S58.7~ (4年計画)	宅地造成 約 38000㎡	古墳時代 掘立柱建物・溝・土城 平安時代後期~中世 掘立柱建物・井戸等
10	伊勢	伊勢町	S58.9	宅地造成 約 2000㎡	奈良時代 掘立柱建物・溝等
11	吉身西	守山町 下之郷町	S58.10~	道路建設 約 10000㎡	弥生時代中期 環濠 弥生時代後期 竪穴式住居 方形周溝墓等
12	赤野井	赤野井町	S58.11~ 随時(立会)	暗渠排水 埋設工事	
13	吉身西	守山町 七反ヶ町	S58.11	宅地造成 約 400㎡	古墳時代 竪穴式住居等
14	小島	小島町	S58.11	宅地造成 約 600㎡	古墳時代以降 旧河道・溝等
15	吉身西	古高町 下之郷町	S58.11~ 随時(立会)	下水道 敷設工事	

以上のように今年度は、4月から12月の間に15件の調査が行なわれました（継続中も含めて）。これらの調査はいずれも守山市の古代の姿を復元するのに貢献するものです。今後も調査に御期待ください。

吉見西遺跡の調査（中間報告） （下え郷遺跡3次）

滋賀県立看護学校の西側隣接地において保健医療ゾーンの造成計画が本決まりになり、昭和58年9月中旬旬に試掘調査を行ない、10月下旬から発掘調査を始め、現在継続中です。守山市の調査範囲は県道古高一川田線計画地で、幅約10m・延長650mの大きさです。南端は現在調査中の金森東遺跡と接し、北端は下え郷遺跡とつながり、遺跡の名称も本来は金森東・吉見西・下え郷遺跡とするのが良いかもしれません。では、遺構・遺物について簡単に説明をしましょう。

全体からみて最も古い時期のものは弥生時代中期の遺構・遺物があります。これは調査地の北端で下え郷町の集落に近い地点で検出された村を囲む環濠と思われる三本の大きな溝です。この溝は幅4～5m・深さ15m程で、中には多量の土器や木製品が埋まっております。環濠がしだいに大きく拡張されて南にひろがったように考えられます。これは現在の下え郷町集落の真下にある弥生時代のムラの南の端といえる塚です。

次に弥生時代の終り頃の住居跡があります。これは看護学校の西側に2棟みつけました。大きさは4m四方の竪穴式住居と2間四方の倉庫跡です。下え郷の古いムラから南の方へムラが移動し、大規模な集落を営んだようです。

このムラは古墳時代にも続き、幾条かの水路跡から鋤や加工した木材が数多くみつけました。又、方形周溝墓と呼ばれる墓がいくつか以上検出され、ちょうど住居域の端に墓地をつくっていたの

です。このあとこのムラは古埴時代後期にはさらに南に中心が移動するものと考えられます。図書館前から金森東遺跡にかけて検出される遺構がえらんであります。

以上のように、吉身西遺跡はムラの拡張から移動への複雑なうつりかわりがみられる遺跡といえるでしょう。

(遺物)

① 台付無頸壺

この土器は弥生時代中頃に畿内で見られるものですが、瀬賀原から愛知県にかけても少しですが見つかっています。今回はほぼ完全な形で見つかったもので、大変貴重なものです。

② 石包丁

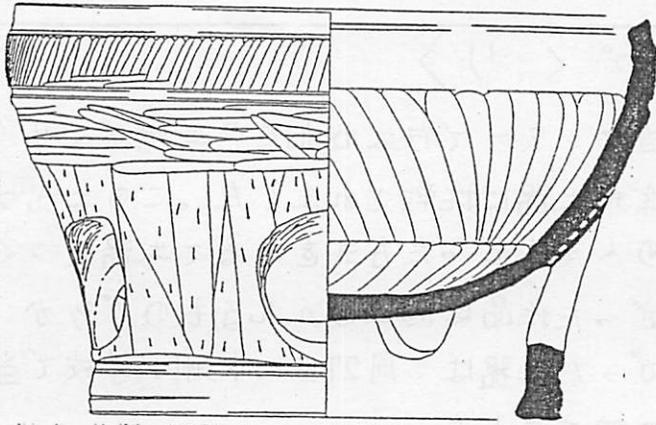
今回出土した石包丁は約半分が欠けていますが、守山市内では2例目、瀬賀原内でも16例目の出土です。石包丁は船を収蔵するさいに用いられる道具として考えられています。瀬賀原内での出土数は少なく、そのはっきりした理由は今のところよくわかっていません。

③ 木製施文具

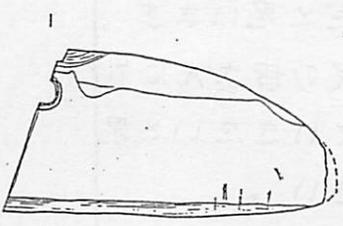
これは土器に文様をつけるのに使ったものと考えられるものです。おそろく成形した半乾きの土器に、この木製品の刻み目のはいた部分を押しあてて文様をつけたのでしょう。施文具の出土は他にあまり例がなく、非常に貴重な発見であるといえるでしょう。

④ ナスビ形着柄鋤

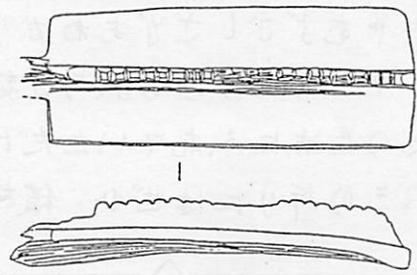
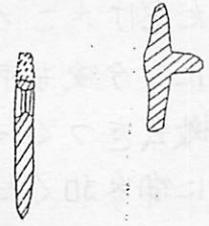
ナスビ形着柄鋤には、U字形の鉄製刃先をつけるやや平たいものと先が二股に分かれているものの2種類があります。今回出土したものは二股のもので、当時においても農具の分化があったようです。



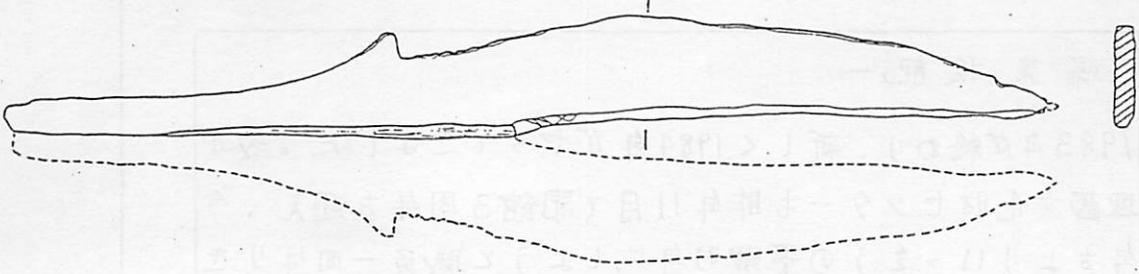
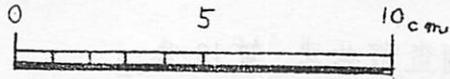
① 台付無頸壺



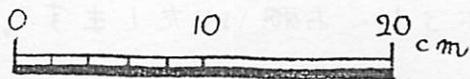
② 石包丁



③ 木製施文具



④ ナスビ形首柄鋤



〈土器づくり〉

さる11月20日に当センターで行なわれた“土器づくり”には、23人の人たちが弥生式土器に挑戦されました。この土器づくりの目標は、弥生時代の人々がとった方法をまねて土器をつくることでしたが、できあがった作品は個性あふれるものが多かったようです。又、できあがった土器は、同27日に中洲小学校で当時の方法をまねて焼きました。

この土器づくりは今回が初めての試みで、技術的には昔の人々の足元にもおよびませんでした。全体的には成功に終わったように思います。又、参加していただいた皆さんには、土器づくりの楽しさやむずかしさがおわかりいただけたことだと思います。

当センターでは今回の試みを契機に、今後市民の皆さんに古代の人々の生活にふれていただける機会をつくっていきたいと思います。この折りにはぜひ、積極的に御参加ください。

◆ ————— ◆
千行図書館のお知らせ

◎「守山市発掘調査報告書 第12集」

—編集後記—

1983年が終わりに、新しく1984年がやってきました。我が埋蔵文化財センターも昨年11月で開館3周年を迎え、今年をよりいっそうの飛躍の年にしようと職員一同はりきっています。

本年もどうぞよろしくお願いたします。

M. M.